［認知症対応型共同生活介護用］

1．評価結果概要表

作成日　平成21年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1273500296		
法人名	株式会社　白松		
事業所名	グループホーム　白松		
所在地	千葉県八街市富山1345－16 （電　話）043-444-6182		

評価機関名	特定非営利活動法人　コミュニテイケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4－4　千葉県労働者福祉センター 5階		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	5月19日

【情報提供票より】（21年2月5日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成16年4月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤　6 人，非常勤　4 人，常勤換算　7.4 人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋耐火 造り
	2 階建ての 2階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	55,000～60,000円	その他の経費（月額）	水光熱費1万円 管理費1万円，等
敷　　金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　（30万円）	有りの場合 償却の有無	有　（期間3年）
食材料費	朝食　300　円	昼食	400　円
	夕食　650　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,350　円		

（4）利用者の概要（2月5日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		2	名	要介護2	3　名
要介護3		2	名	要介護4	1　名
要介護5		0	名	要支援2	0　名
年齢	平均	87.2 歳	最低　81 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	八街総合病院　　佐倉デンタルクリニック(歯科)

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設5年目を迎える、1ユニットの家庭的なグループホームである。ホームに隣接して同法人の介護付き有料老人ホームが建てられており、さまざまな連携が図られている。グループホームは定員9名で小規模だが、有料老人ホームは定員150名と大規模で、看護師が24時間常駐しており、職員数も多く、グループホームにとっては大きな幹のように頼れる存在である。行事、職員研修などを合同で実施することが多く、職員同士も馴染みの関係であり、助け合いがなされている。ホームは2階建ての2階部分を利用しており、1階は多目的スペースとなっている。職員の定着率がよく、入居者と信頼関係で結ばれている。昼食時、皆で楽しく会話し、笑い声が絶えない状況が見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** ホーム理念の文言が長く、掲示も字が小さいという指摘については、理念を短くまとめて箇条書きにし、見やすい掲示に改められていた。自己評価票の作成は、職員全員にシートを配布し、意見を集約して管理者がとりまとめた。家族の意見の吸い上げについては、意見箱を設置したり、運営推進会議他、積極的に面談を行なうようにしている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 前回は管理者のみで自己評価を作成したが、今回は職員全員に自己評価用紙を配布し、意見を取りまとめた。AEDを設置したらどうかという意見が挙がり、管理者が早速手配を行なった。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は今年度1回行われた。参加者は、近隣9地区の地区会長、地域包括支援センター職員、入居者家族らである。会議では、ホーム紹介や質疑応答などが行われたが、次回の予定は未定である。法人幹部が、地域の区長と繋がりを持っており、家族とも個別に面談しているので、あまり開催の必要性をホームが感じていない。また土地柄もあり、家族があまり顔をあわせたく無い模様で、運営推進会議という形ではない、別の連携の仕方を模索しているところである。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族の意見・要望等は、介護計画見直し時に個別に幹部職員が家族と面談し、話を聞いている。また、面会時や電話などでも、随時連絡を取り合っている。意見箱も設置したが、投書は今のところ無い。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域は、古くから住んでいる住民と、定年退職後に家を買って移り住んできた住民とに大別されており、高齢化率は高い方である。近隣各区の区長らとは密に連絡を取り、地域に溶け込むように努めている。老人会、敬老会に参加したり、盆踊りなどの行事に加わっている。ホームの職員が、キャラバンメイト養成研修の講師を務めることもある。地域の民生委員とは、法人の営業部が連携をとっている。

2. 評 価 結 果 （ 詳 細 ）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自立と充実し、安心および満足」「尊厳ある生活介護」という理念が、ホームのわかりやすい場所に明示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を理解し、チームワークを旨としている。入居者の安心と満足、尊厳を守るため、特に声かけに配慮している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	土地柄を理解し、地域に溶け込むため、近隣十数地区の地区会長とは密に連絡を取っている。老人会や地域の盆踊りなど、さまざまな行事に参加し、交流を楽しんでいる。隣接する同法人の有料老人ホーム主催のクリスマスや納涼祭にも参加し、地域の人の参加も必ずある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年は管理者のみで自己評価を作成していたが、今年度は職員全員に自己評価票を配布し、皆に記入してもらった。AEDを設置したらどうかという意見が出され、早速手配を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣各地区の会長や家族とは必要に応じて連携が取れているため、ホームは運営推進会議のニーズを感じていない。過去に1回開催したが、土地柄を鑑み、会議の開催や運営方法を模索中である。	○	「運営推進会議」という名目でなくても、地域の人や家族、行政、有識者、現場職員らで話し合いの機会が設けられると、地域密着型サービスとしての役割が、より明確になると思われる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ、介護保険課と連絡を取り合っているが、八街市地域包括支援センターとはあまり連携がない。消防や警察とは随時連絡を取り合っている。ホーム職員が、社会福祉協議会でキャラバンメイト養成の講師を務めることもある。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム新聞を発行し、行事予定や入居者の写真、職員の言葉などを載せている。毎月のバイタルの記録も併せて送付している。また、介護計画見直しの際には面談を実施したり、面会時や電話等で随時、連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前行っていた家族会や懇親会などは、家族の事情を考慮し、今年度は行わなかった。意見は面会時等に個別に聴くようにしている。以前に食事についての満足度アンケートを実施したこともあった。家族の要望は、可能な範囲内でサービスに反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率がよく、異動による影響はあまり発生していない。新人職員が入った際にも、世話好きの入居者らがいろいろ教えてあげたりし、すんなりと馴染んでいる。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成には力を入れている。資格の有無はあまりこだわらず、認知症高齢者に心をこめて接することのできる職員を採用し、法人研修や社協の研修等で、スキルアップを図っている。永年勤続表彰などの制度もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の集まりなどに参加している。また近隣のデイサービスと連絡を取り合い、入居希望者、職員の紹介などの情報交換をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居したばかりの人には、寂しくないよう、家族に面会に来てもらったり、職員が寄り添うなどの配慮をしている。夜眠れなかったり、不穏になってしまった場合は、温かいお茶やミルクを提供し、職員が話を聞いている。入居者の中に世話好きな人もいて、馴染めるように話しかけたりしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は和気あいあいと生活をしている。ともに畑仕事をしたり、掃除をしたり、悩み事を聞きあったり、家族のように支えあって日々を過ごしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昼食後など、折をみて居室に行き、話を聞く機会を作っている。言葉の少ない入居者には、表情、身振り、行動から思いを汲んだり、家族の意向も聞きながら入居者本位のケアに努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族との意見交換会を約6ケ月毎に開催している。入居者、家族、介護支援専門員、施設長、管理者が話し合い、その意見が介護計画に反映されている。しかし、現場の介護職員が意見交換会に参加するまでにはいたっていない。	○	現場の介護職員をを意見交換会に参加することにより、家族とのコミュニケーションも深まり、より良い介護に結びつくと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ケ月毎に見直しを行っている。また、状況の変化があった場合にはケアプランを変更し、家族に連絡している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の有料老人ホームのフラダンスサークルの活動に、入居者が参加するなど、老人ホームの協力もあり、多種多様な行事、活動での交流がある。また、有料老人ホームに常勤している看護師が、毎日ホームに来て、入居者の健康管理するなど連携が取られている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とする入居者が多い。毎週水曜日本館医務室で受診、毎週月、金には訪問歯科の受診を受けることができる。また、入居者の必要に応じ成田の日赤病院の精神科への受診の支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のありかたについては、早期の段階から家族から相談を受ける場合もあり、、医師と家族との話し合いの機会を設け、立ち会っている。ターミナルケアは、風呂などの設備面の課題もあり、現在は受入れていない状況である。しかし、状況に応じて隣接する有料老人ホームへの移動（ホームの利用料のままで）を勧めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけは、ていねいで、聴覚に障害のある入居者には耳元で大きな声で話しかけるなど一人ひとりの個性を大事にした対応ができている。また、個人情報の記録等は施錠により、管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、ゆったりとした時間を過ごしている。例えば、食事時間はゆっくり設けられ、昼食後も居室で休む人、仲良しグループでおしゃべりをリビングで楽しんだり思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の菜園で収穫した野菜を洗ったり、米とぎ、盛り付け、食器洗いなどを入居者の残存機能を生かし行っている。食事中は、おしゃべりや笑い声が絶えず、楽しい雰囲気である。彩りもきれいな食事であり、ほとんどの人が残さず食べていた。調理専門の職員がおり、隣接する有料老人ホームの栄養士の助言を得ることもできる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに入浴日を設定しているが、希望に応じ変更は自由である。午後2時ごろバイタルチェックをした後、入浴している。一人で入浴できる入居者は、見守りをし、必要な人には介助をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握し、それぞれの好みに合った役割を持ち、毎日の生活を楽しめるよう支援している。菜園の草むしり、食事の準備や片付け、日本舞踊、合唱、貼り絵などをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や、体調により、入居者に応じた散歩コースを選択している。園庭でお茶を飲んだり、神社まで散歩もしている。また、食材の買い物に、順番に職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を優先して、家族了解のもと、玄関と2階の出入り口は施錠している。また、2階自動ドア付近では危険防止のため、チャイムが鳴るようにもなっている。入居者の希望により、職員と一緒にいつでも出入りは自由である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月19日をホームの「防災の日」と決め、消防署や、防災会社の勉強会に職員が参加したり、入居者も一緒に消防訓練を実施している。また、消防署の立ち会いのもとの避難訓練も実施されている。隣接する有料老人ホームとの連絡体制も確立されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は、個々に表を作成し管理している。体調不良の場合は、その状況に応じた調理をしている。水分摂取の少ない入居者には、コーヒー、ココアなど好みのものを提供している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンと一体となったリビングは窓が大きく、日当たりの良い開放的な空間になっている。リビングや廊下にはソファーが置かれ入居者は自由にくつろいでいる。お風呂場も窓が大きく、外部が良く見え、露天風呂のような雰囲気がある。廊下や居室の入り口には、職員と一緒に工夫した作成した作品が飾られていて、ホーム全体に楽しく暖かい雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活歴に応じたなじみの物が持ち込まれている。仏壇を置く人、日本舞踊の扇を飾る人、壁に家族の写真を飾る人などさまざまである。		